

資料3

「黒沢洞合自然公園」について

1 事業の概要

・この公園事業は「三郷村合併 50 周年記念事業」としてスタートし、三郷中学校の生徒たちが総合的な学習のなかでまとめた、里山の自然を生かした公園計画「黒沢川自然公園プラン」を具体化したものである。この中で生徒たちは「洞合に残る自然とふれあう」ことを計画の基本とした。3年間に亘り中学生との関わりを持ちながら、三郷村の「まちづくり推進会議」などの皆さんも巻き込み事業が進められ、例の少ない学社連携の事業となった。

・洞合村買収地 全 29 筆 23,131 m²のうち、三郷村大字小倉 2947-1 他 6 筆 5,646 m²を利用。

・主な施設・・・池、園路等のピオトープ公園施設、トイレ（バイオトイレを予定）・植栽等
・周囲の自然環境に十分配慮した施工を行う。植栽など子供たちとの関わりももつ。

(単位：円)

	H17 執行	H18 執行	計
設監委託	2,688,000	966,00	3,654,000
工事請負	0	36,120,00	36,120,000

2. 事業の期待される効果

①自然の保全と創出

・洞合地区は三郷地区に残る最後の里山環境と景観を残す場所であり、希少種の生息も確認されている。ピオトープ池を造るなどして自然度を高めれば、トンボなどの水生生物の定着が見込まれ、もともと残る自然と相まって里山らしい自然環境の創出が期待できる。

②環境教育の場

・公園は生物の呼び寄せを目的とした造成や植栽が中心で、上屋はトイレ兼倉の小さな建物が1棟あるだけである。自然観察に最適な場所が三郷地区にはなかったため、学校や住民の環境学習の場としての活用が期待できる。

参考資料

事業の経緯

・平成 16 年 6 月、三郷村合併 50 周年記念事業の一つとして、子供たちが自然と触れ合える場として「ふるさとの森づくり」が提案される。

洞合にどんな公園がふさわしいか、三郷中学校 1 年 3 組の生徒たちが、総合学習の場で学習を深め、平成 17 年 3 月、「黒沢川自然公園プラン」として村に提言する。

引き続き、具体的なビオトープ（生物の生息場所）のあり方について、2 年 5 組が総合学習の一環として内容の検討を進める。

平成 17 年 6 月 14 日、黒沢川流域協議会において、県の 2 池＝、1 池案の変更について協議されるも最終結論に至らず。

平成 17 年 7 月 2 日、県生涯学習フォーラムにおいて、学社連携の事例として発表。

平成 17 年 7 月 13 日、設計監理業務業者プロポ。鶴アンドーに決定。その後、中学 2 年生が総合的な学習の時間において公園設計をテーマに学習を深め、その成果を実施設計に反映させる。

平成 17 年 11 月 1 日、黒沢川流域協議会で 1 池案了承。

平成 18 年 3 月 8 日、工事入札。繡信州グリーンに決定。

平成 18 年度では、中学 3 年生のチームが実際の公園造りを学習テーマに選ぶ。実際に測量を体験したり、小川の石積みやビオトープ池の遮水シートを敷いたりする工を手伝う。利用案内看板などをデザインし、公園名を「黒沢洞合自然公園」とした。

平成 19 年 3 月竣工。